福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2008
11月10日 号
111 VOL.

発行所 社団法人　福島県放射線技師会　　〒960-8003　福島市森合字蒲原16-7　TEL/FAX 024(559)1043
ホームページアドレス　http://fart.jp/

巻頭言

法人制度改革に注目

会長　片　倉　俊　彦

「妻をめとらば才たけてみめ麗しく情ある　友をえらばば書を読みて六分の侠気四分の熱」与謝野鉄幹の「人を恋うる歌」の一節である。「嫁をもらうなら賢くて美人で人情に厚い人がいい。友達を作るとしたら読書好きで6割くらいの義侠心と4割くらいの情熱があるような人がいい。」というような意味であろう。理想に燃えた学生の頃の思い出であるが、嫁に関しては年齢を重ねるほど夢と現実の差は拡大しており、まるでビッグバンのごとき勢いであるところが悲しい。

さて、もう一つの人生の伴侶である生業はどのような基準で選ばれるのだろうか。免許条件である大学に入る動機はそれぞれであっても仕事の中身を理解して放射線技師になろうとした人は希であろう。そして、仕事の現実は就職して初めて知る方が大半ではないだろうか？ここで、前述の「妻をめとらば」に戻ろう。結婚適齢期の方々でNo problemの恵まれた職業人は極希であるから、収入などを確認したい。まともに聞くわけにもいかないので「何処にお勤めですか？」とアプローチを試みる。ここで「病院に勤めています」と答えると「お医者さんですか？」「看護師さんですか？」と問い返されることが多い。「いいえ、放射線技師です」と答えた瞬間、「妻をめとる」から「結婚していただく」に変わるのである。共稼ぎが必須の昨今では「女性もまたしかり」である。当人同士では「そんなの関係ねぇ！」であっても、親や親戚といった一般社会ではどんな仕事の人か分からなければその様に思われることがあってもやむを得ない。

話は変わるが、平成14年に仕掛けられた時限爆弾が平成20年12月に爆発し、明治以来の法人制度が改革される。この制度改革によって、従来公益法人として活動してきた放射線技師会も再度、その公益性を審査されることとなる。この公益性については、一般社会にお金や労力をばらまくような行為をもって公益と考える人も多い。放射線技師会としては、放射線技師の職業自体が公益性を有しており、放射線技師のレベルを向上させることが地域医療に貢献するという観点で公益性を認めてもらうべきと考え、定款改正などの準備を進めている。会員諸氏は、自己研鑽という基本的作業の継続とともに放射線技師という職業を一般社会に知らしめる活動の一環である公益社団法人認定についても興味深く注視していただきたい。

平成20年度原子力防災訓練 緊急被ばく医療活動に参加して

平成20年度原子力防災訓練は10月21日・22日の2日間にわたり国の原子力総合防災訓練と合同で実施されました。

私が参加したのは、22日の避難住民がやってくる救護所での訓練です。救護所は双葉町・大熊町の2箇所に開設され、私は双葉町児童館の方へ参加しました。到着したら、その旨を救護所責任者または連絡員に報告します。参加者は事務、消防、警察、医師、薬剤師、看護師、放技師、その他約50名で、放射線技師の役割は、スクリーニングチームの中の汚染検査員となります。まずは測定器（GMサーベイメータ）の動作チェックを行い、バックグラウンドを測定しました。次に、防護具（白衣･エプロン･腕カバー･綿手袋とゴム手袋･キャップ･マスク･靴カバー･役職明記ベスト・個人線量計）を着用して、医療活動訓練実施の準備をします。避難対象者（双葉町住民約50名）が救護所へ到着して被災地住民登録を行いその後に測定検査となり、実際に頭から足裏まで全身を測定してその結果を記録員に報告します。以上で汚染検査員の活動は終了です。もし表面汚染があれば除染ブースの方にまわり（双葉では今回は無し）、汚染が無ければ問診へ行き、次に安定ヨウ素剤へと流れていきます。負傷者の場合は別ルートにて体表面汚染モニタされて、汚染が無ければ救護エリアに送られます。また以上の活動内容は医療活動開始と同時に監視員、記録員、報道関係が入って、観察、録音、録画されました。

全体活動終了後は避難住民と一緒に防災講習会を聴講して、昼食（炊き出しレトルト）、後片づけをして終了しました。（浜通り支部　S.A）

SIGNA甲子園全国大会へ出場決定!

SIGNA甲子園とは、GE社製のMR装置を使用し創意･工夫･実現性を反映した画像を競い合うイベントです。全国各地の使用者同士の交流・意見交換の場でもあります。年々、全国的な盛り上がりを見せ、参加する施設が増大しています。

平成19年は、当院でSIGNA甲子園福島県大会が開催されました。我々は、昨年の固定法から一歩進んで手関節の固定器具を考案しました。その結果、好評を頂き3年連続で福島県大会優勝が出来ましたが、全国大会出場の夢は叶いませんでした。

そして、今年こそと闘志を燃やし、あまり使用していないマンモコイルの再生を検討しました。当院は糖尿科が有名なのでと考えて、背臥位で両足を入れて撮像する方法を検討しました。そして、やっと今年は県大会を書類審査で合格し、北海道・東北ブロックの3枠に入ることが出来ました。12月に札幌で開催させる全国大会に福島県から初出場します。（太田西ノ内病院　MR室）

福島県厚生連放射線技師会開催

去る10月25・26日、福島県厚生連放射線技師会（会長：渡部朝之　会員数44名）が開催された。まず渡部会長からの挨拶から始まり、次に放射線科副部長の浦部真平先生から「核医学診療の進歩」の演題名で特別講演が行われた。今回はこの5月から新病院にて診療が開始されている、白河厚生総合病院を会場に開催され、放射線科に設置されている装置とその運用に関して、各担当者から説明を受けた。

旧病院とは比べものにならないほどのその機能の充実ぶりに感心し、地域医療を担う厚生病院としてその機能は充分に発揮されるものと思う。

会員発表は、3病院（白河・坂下・塙厚生病院）より、各部門から9演題もの研究が提出された。各演題とも活発な討論が行われ、会員の研究に対する熱心さが感じられた。その後会員交流会は会場をホテルに移し、これも全力投球にて朝方まで活発な討論が行われたようだ。

（幕田）

平成20年度放射線技師学術大会日程表

平成20年11月2日　福島県立医科大学　講堂

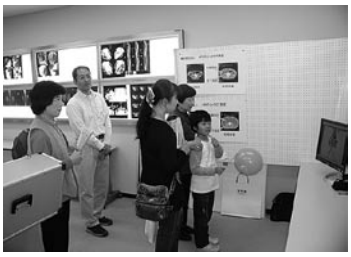
9：30　参加登録受付開始
10：00　開会式、表彰式
　開会挨拶　新里　昌一　実行委員長
　大会長挨拶　片倉　俊彦　県技師会会長
10：15　セッションⅠ　治療　（6題）
　座長　鈴木　広志（白河厚生総合病院）
11：15　セッションⅡ　CT　（4題）
　座長　足利　広行（竹田綜合病院）
11：55　昼休み　（～13：30）
12：20　ランチョンセミナー
　「心臓CTを成功させるための基礎知識」
　講師　山口　隆義　先生
13：30　セッションⅢ　RI・被曝　（4題）
　座長　小松　一文（会津中央病院）
14：10　セッションⅣ　MRI　（6題）
　座長　清野　真也（県立医大学附属病院）
15：10　セッションⅤ　一般撮影・マンモ（5題）
　座長　堀江　常満（雲雀ヶ丘病院）
16：00　セッションⅥ　ネットワーク・他（6題）
　座長　福田　和也（公立岩瀬病院）
17：00　閉会式
　閉会挨拶　白川　義廣　副実行委員長

支部便り

県北支部

県北技師会が「健康フェスタ2008」に参加

去る9月27日（土）福島市保健福祉センターにおいて、福島市主催、福祉の祭り「福島市健康フェスタ2008」が開催された。今年は「みんなですすめよう！健康づくり」をメインテーマに、約30の市内の福祉団体が参加し大変賑やかな開催となった。県北技師会もその趣旨に賛同し、昨年にひき続いての参加となり「最先端医療画像への取り組み」とのテーマで三大生活習慣病である「がん・心臓病・脳疾患」を中心とした医療画像の紹介や、マンモグラフィー、メタボリックシンドローム検査などについてのパネルや写真の展示を行った。来場者の方々よりＣＴ・ＭＲＩ検査や乳がん検診など様々な質問があり、市民の皆様の健康に対する意識の高さがうかがえた。また、一般の方にも理解していただけるように丁寧かつ真摯な態度で説明する役員の姿がとても印象的であった。



今回はお楽しみ企画として来場者にアンケートを行い景品のプレゼントもあり、特にお子様や家族づれに好評であった。約200名の市民の方が技師会のブースを訪れ、最新医療や放射線技師会の活動について大いにアピールすることが出来た。

当日参加された役員の皆様、遅くまで大変にご苦労様でした。

（池田）

会津支部

[第24回健康まつり]の開催

平成20年10月12日（日）、会津若松市文化センターにおいて、第24回会津若松市健康まつりが開催されました。例年だと9月上旬に行われていましたが、今年は1ヶ月程遅らせたことで、「環境フェスタinあいづ」「市民健康ウォーク」の3大会合同の大きなイベントとなりました。

今年の健康まつりは「学ぼうよ、今日の健康　明日の幸せ」をメインテーマに、会津地方の様々な医療職種の団体が参加しました。今回、放射線技師会会津支部としては、「放射線でわかる事」と題打ってパネルやフィルムの展示、モニターを持ち込んで3D画像の表示なども行いました。また、4月から始まった、いわゆるメタボ検診の知名度もあって、内臓脂肪測定をはじめとした各種検診内容についての質問を訪れた観客からいただきました。今年は晴天にも見舞われ、気持ちよい天気の中、大いに盛り上がった健康まつりとなりました。

（森谷）

県南支部

「ファミリーフェスタ2008」開催される

10月5日（日）、郡山総合体育館において、保健・福祉フェスティバル郡山2008実行委員会主催による「ファミリーフェスタ2008」が開催されました。これは保健や福祉のことを市民に広く知っていただくことを目的に開催されており、県南支部も例年どおり参加しました。今回は「あなたの身体を守る放射線～内臓脂肪はどうやって測るの？～」というテーマでのぞみ、メタボリックシンドロームの判断基準のひとつである内臓脂肪の計測について説明などを行いました。また体験コーナーでは、超音波方式の骨密度測定や血管年齢測定のデモを行いました。来場者の方の関心が非常に高く、体験コーナーにはフェスタの終了間際まで行列が続いていました。

動脈硬化の原因のひとつに高脂質血症や高コレステロール血症などがあり、その引き金になっているのが内臓脂肪の蓄積であるといわれています。内臓脂肪の蓄積度合いを視覚的に見ることができ、かつその面積も計測可能なソフトウェアは今後も普及していくものと思います。

（菅野）

浜通支部

浜通り支部夏期学術研修会開催される

浜通り支部夏期学術研修会が8月23日（土）に県立大野病院にて開催された。

学術研修会の内容は「心臓検査にむけた取り組み」と題し、東芝、GE、Philipsの3メーカーによるプレゼンテーションが行われた。最新の技術紹介で、各メーカーとも被曝線量の低減に関する撮影技術についての説明があり大変興味深いものであった。

続いて「ADCT Aquilion ONEの使用経験」と題し、財団法人厚生会仙台厚生病院の荒井　剛先生を向かえ、その臨床使用の実際について説明があった。1回転で心臓全体を捉えることの出来るこの装置は、被曝線量の低減がはかれることはもとより、スループットの高さから将来的には1日当たり20件の検査を考えているという。

次に、CTフィルムディスカッションが行われ、心臓検査に携わる福島労災病院、南相馬市立総合病院、県立大野病院の各施設での、各メーカーの違い、撮影方法、問題点など、参加者間で熱心な討論が行われた。最後に、県立大野病院放射線科の施設見学を行い、メーカーの説明を受けながらファントムを用いたphilips装置のCT撮影を行った。参加者は自施設の装置との相違点、操作性、画質などを確認し情報交換を行い、研修会日程を終了した。　（花井）

第5回いわき地区画像研究会開催される

平成20年9月9日（火）午後6時半よりいわき市立保健センター多目的ホールにおいて、第5回いわき地区画像研究会が開催されました。今回はMRIがテーマで、シーメンス旭メディテック株式会社MRアプリケーション部　鍛冶翼先生、いわき市立総合磐城共立病院　角浜憲孝先生より演題でご講演を賜りました。

鍛冶先生からは「最新のMRIの動向」と題して、セグメントに別れた全身用コイルの話から始まり、最新アプリケーションの紹介がありました。一番印象に残ったアプリケーションは、今私が使用しているものは頭が動いてしまうと綺麗な画像を得ることは不可能ですが「syngoBLADE」を使用すると動いているはずの画像が全く動いていないクリアな画像として得ることができるということです。

また、角浜先生からは「40代からのMRI入門」と題して、SE法を重点的に、磁場をかけてから画像を得るまでの過程を細かく説明して頂きました。私もちょうど40代であり、学生の時はこの様な理論は学んでこなかったのですが、その理解度の深さにただ感心するばかりでありました。(鈴木)

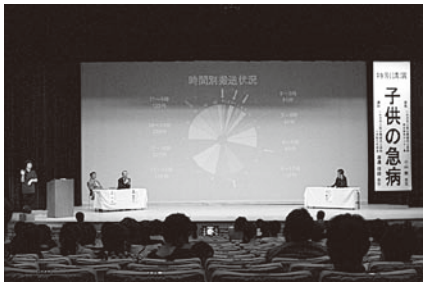
第5回相双画像診断勉強会開催される

去る9月3日（水）南相馬市ラフィーヌにて第5回相双画像診断勉強会（共催;エーザイ株式会社）が開催された。この勉強会は、スキルアップしたいと思いながら福島や郡山で行われる研究会などに地域・時間的な理由で参加できないとの理由から2年前に立ち上げた研究会である。平成18年9月6日の第1回から大原綜合病院の森谷先生による領域別のCT・MRIを中心に画像診断シリーズとして行われ、第1クール5回を無事に終了した。

内容と参加者数は、第1回：胸部・31名、第2回：腹部・29名、第3回：頭部・26名、第4回：骨盤/下腹部・20名、第5回：骨/大血管・25名であった。講演会終了後懇親会が行われ、今回の情報交換会の場では、胸部CTのフィルムディスカッションとして、5施設(4メーカー、4装置)の胸部CT画像について、先生からのコメントを頂きながら意見交換を行った。今回の勉強会は、地域の技師の数からしても多くの参加者を得ることができうれしい限りである。第2クールも新たな世話人のもと開催予定であり、今後とも興味を持てる勉強会の開催を期待したいところである。5回にわたり我々のため、遠路お越しいただいた森谷先生に、ニュースの紙面をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。世話人堀江　（花井）

市民フォーラム及び市民公開講座開催される

恒例となっている市民フォーラムと市民公開講座が福島県放射線技師会浜通支部も後援して、9月13日と10月18日に市民文化センターで開催された。



市民フォーラムは救急医療いわき“2008”『子供の急病』のテーマで行われ、磐城共立病院の渡辺信雄小児科部長の講演では、病気の解説と症状から判断できる緊急度の説明など子供を持つ親にとっては貴重な講演となった。

救命士による救急車の搬送状況などの説明もあり、小児救急の手薄い現状も明らかになった。

市民公開講座は『地域で見守り一健やかな老い』のテーマで開催され、特別講演には茨城県立健康プラザの太田仁史先生の“最後まで人間らしくありたい”と題して主に介護予防とリハビリテーションの話であった。

誰しもが避けて通れない事なので、地域の協力、家族の支え、そして本人の自立への意欲などそれぞれの努力と連携が必要で、うまくかみ合って機能することが大切なことと感じた。我が身に置き換え考えさせる内容であった。(八巻)

編　集　後　記

今月号は各支部から健康まつりでの様子が報告されました。放射線技師の職業をアピールする良い機会だと思います。また毎年11月にはレントゲン週間が計画されておりますので、自分達の日常業務を紹介し、健康管理に関心を持ってもらう事につなげてもらってはいかがでしょうか。　（幕田）